

# 令和4年度 研究構造図 [情報] 分科会

## 研究主題

創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く児童の育成

— 言語力・課題解決力・情報活用力を働かせた探究的な学びを通して —

## 情報分科会の重点

児童が探究学習をする上で、情報機器は、情報源を豊かにしたり、たくさんの情報を整理・分析したり、納得いくまで表現の試行錯誤をしやすくしてくれる有効的な手段である。

本分科会では、ICTを活用した情報活用力を育成し、論理的に思考し、新しい価値を創造する力を養うことを目指す。

## 育てたい資質・能力

C1

情報機器基本操作

安全・安心に、手段の基礎的な操作ができる。

### 取組みの柱

○『教育の情報化ガイドブック』（ふじみGIGAスクールスマート構想、他ブレとの約束、ロードマップ、基本的操作簡易マニュアル等を含む）の策定・活用

C2

情報活用実践力

情報手段の特性等を理解し、課題や目的に応じて適切に活用し、発信・伝達ができる。

### 取組みの柱

○教科の学びを深め、学びの本質に迫るための1人1台端末による新たな授業スタイルの視点で、新たな学びの構築

C3

プログラミング

問題解決の手順・順序を理解し、コンピュータの特性をいかして思考・判断・表現し、簡単なプログラムができる。

### 取組みの柱

○プログラミング教育の意義や目的を整理し、効果的な指導資料等の開発活用

C4

情報モラル

自他の情報を大切にし、情報社会や情報手段の特性の理解と、安全かつ適切に情報手段を活用しようとする考え方と態度を身に付けている。

### 取組みの柱

○SNS 東京ノートや情報モラル教育サイトなど、指導資料の整理・活用

○全ての教科において、1人1台端末を効果的に活用する年間指導計画を作成・実践・記録

○情報活用力育成指導計画を作成(6年間の系統性)し、授業実践・検証

○プログラミング教育の指導計画を作成(6年間の系統性)し、それに基づく授業実践(年3回×6年間)

○情報モラル教育の指導計画を作成(6年間の系統性)し、それに基づく授業実践(年3回×6年間)

◇上記の授業実践を通して、児童の情報活用力の成果検証を行う。